

# 旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部  
会員向けニューズレター  
発行人 古川 彰久  
事務局 〒252-0321 神奈川県  
相模原市南区相模台 1-23-9  
Tel.&Fax.  
042-748-8240  
<http://www.jouhan.com>  
E-mail: [info@iki2life.com](mailto:info@iki2life.com)

## 12月例会ご案内

12月8日 木曜日 18:30 ~ 21:00  
テーマ : 歓迎、トランプ大統領  
場所 : 港区商工会館  
参加費 : 1000円  
担当 : 篠原 昌人

アメリカ新大統領が決まった。様々の論評は、やれ“番狂わせ”、“トランプショック”、はてまた“想定外”といった風で、不安感、意外の観をあおりたてているようである。でも新聞が、“想定外”と書くのはただけでない。接戦であることはわかっていたことだし、こんな言葉が出るのは自らの無知をさらけ出しているようなものだ。私見によるところオヤッと思ったのは、当選した人物に向かって公然と大規模なデモ行進が起こっていることだ。トランプを大統領と認めない、という主張である。米国大統領選挙については全く門外漢だが、過去こうした例があったのだろうか。言論は自由であるからまあ結構であるが、公正な選挙の結果に対してはハッキリと認めるのが民主主義、多数決ではないのか。アメリカは民主主義の元祖である筈である。

反トランプデモの参加者の頭を推測するに、自分の主張と相容れぬものは受け入れない、ということのようである。たとえ主義主張が違っていても、それを表明する権利は死んでも守る、とは民主主義国家の原則である。これが否定されると思想統制になって行くのだが、現状ではそこまではいくまい。けれどどことなく保護主義的な考えが推測できる(トランプは保護主義的な言動の筈だったが)。保護主義的な考えが増進していくと、他の経済圏を排除するブロック経済圏に発展していく。果たして新大統領がどういった政策を打ち出すのか。全く未知数ではある。その未知数の故の不安からデモが起こっているのかもしれない。

選挙運動期間中の言動、公約と、実際の施策は別物である。政治は妥協の産物と言われるごとく、実際場裡にあっては千変万化する。これまでの日米関係はあちらの大統領に誰がなっても、大方、大方であるが変わらなかったと思う。それは両国は友好国であり、日本はアメリカの弟分であるという意味においてである。

だがどうもトランプ大統領は、日本を敵としないまでも、何かこれまでにないショックを与える可能性が感じられる。これまでにない顔、政治家としては素人っぽいご面相、だから何をやるかわからないのだ。そこで考えられる対日ショック療法は、極論だが以下の通りとなる。

### ①、日米安保破棄

日本から破棄するのではない。アメリカ大統領から破棄宣言が出たらどうするか。安保不要論者は喜ぶかも知れないが、ハテその後はどうなるのだろうか。対案としては三つ考えられる(この場では伏せておく)。

—  
—  
—

この案は核の傘から放り出された日本が、どう進むべきかも示すことになる。

### ②、TPP問題

すでに答えは出ているようなものだが、選挙と同じく最後までわからない。安倍総理の説得が功を奏して相手が軟化してくるかもしれない。どういう決着にせよ、アメリカが自国本位の姿勢を打ち出して来ることは間違いなからう。日本の対外発展策をどう構築するのか。

### ③、反グローバリゼーション

いつの頃からか言われ出したこの言葉、適切な訳語がない。でも何か、わかったように感じている。何といたってITの発展により世界が瞬時につながることで、モノ、ヒト、カネ、ハナシ(情報)が流れることを意味するのだろう。技術としては止めようがないが、どうもトランプは政策として反対の方向を打ち出して来る匂いがする。難民、移民制限がそれである。日本はグローバル化かどうか考えて見るべきだろう。

以上大体の問題意識を披露させていただいた。皆様の論議の土台になればと思う。

(篠原昌人)

# 10月例会報告

10月13日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 城野先生遺稿  
古事記中国語原本と翻訳  
第4回

場所 : 港区新商工会館  
担当 : フリーターキング

城野先生の遺稿を整理する中で、特に興味を引いたのが、古事記の原稿資料です。

これまで、城野先生遺稿「古事記中国語原本と翻訳」について以下の通り3回にわたり、論議してきました。

6月の例会では、榊原氏から城野先生遺稿「古事記中国語原本と翻訳」について、以下のような項目で説明がなされた。

1. 古事記とは
  - (1) 真福寺写本
  - (2) 本居宣長の翻訳とは
2. 城野宏先生の古事記翻訳
  - (1) 先生の古事記既刊本との時系列的関係
  - (2) 翻訳の目的
3. 城野宏先生の問題提起
  - (1) 序文と本文はつながらない
  - (2) 本居宣長翻訳の問題点
  - (3) 古事記と日本書紀の年代確定について
4. テキスト古事記(上巻)の発行者について

7月の例会では、石田氏のご好意によりスキナーしていただいたテキスト古事記(上巻)の資料をそれぞれが読み感想や意見を述べ合いました。

石田氏の例会報告の要約は以下の通りです。

本原稿資料は、真福寺写本の中国語を翻訳したもので、上、中(原稿用紙83枚)、下巻(56枚)からなり、上巻のみが製本済です。面白いのは上巻の序で、古事記の序文は漢文で書かれているのに、本文は簡単な中国語で記されていて、内容に相違があり、つながらないなど、我々が学んできた古事記の認識とは違いがあるようです。

城野さんによれば、古事記は本居宣長が日本の古語を研究し、古事記の中国式漢字配列のそばに自分の知っている古語を当てはめたのが「古事記伝」である。全部が日本の古代語らしいものに置き換えられてあり、普通の人には分からない。古事記の研究というと、原本のやさしい中国語ではなく、難しい古代語訳古事記が、まるで本来の古事記の原本だと誤解されてしまったようだ。

城野さんは、古事記は難解で近寄り難いという先入観を突き崩し、古代日本人の生活内容を研究して、これまでの偽りの歴史から抜け出す助けにしようとしたのだと思います。この為に勉強会を立ち上げ、こ

のテキストとして、上巻に引き続き、中巻、下巻と発刊しなかったと思いますが、残念ながら先生が亡くなられたため、刊行は上巻のみとなっています。

9月の例会では、石田氏が参考資料を用意いただき、上巻に出てくる神々と命(みこと)、比売(ひめ)等の名前と系図を整理し説明頂きました。また、中巻に出てくる神武天皇以降応神天皇までの天皇や王(おおきみ)、命、比売の系図表を整理し解説をされました。

更に10月の例会でも、石田氏から補足として、下巻の仁徳天皇から推古天皇までの系図表を提示いただきました。

これまで主に古事記の内容について論議をしてきた。まだ下巻が残っているが、大体内容は理解できたといえる。また、この遺構、そのものが城野先生のご指導の元で、「古事記を中国語で読む会」事務局長の西忍氏が発行しようとしたものであります。(上巻は発行されましたが、中巻と下巻は、城野先生が亡くなられたために遺構として残されました)

西忍氏は、このテキスト作成の目的として、次のように書いています。

「古事記」に登場する人々が、その登場する時代に、どのような社会を作り、そしてどのような人間生活をおくっていただろうかということを研究したいと考え、「古事記の中の人間と社会研究会」を開くことになりました。この研究会は「古事記の時代」に興味のある人なら誰でも、できる限り多くの人々が参加しやすいようにするとともに、「使いやすい」テキストを作ることが基本であると考えました。又、研究の成果を着実に積み重ねていくためには、「事実認識がバラバラにならないように」そして、「共通の事実認識のうえに立って、討論・研究ができるように」と考え、このテキストを編集・製作しました。

従い、私達としては、情勢判断学あるいは脳力開発の立場からこの「古事記」の中から何を受け止めるのか、原点に戻る必要があります。

その意味で、これを整理するために城野先生の著書「古事記と人間」を整理することといたしました。

これまでの古事記に関する論議を総括する意味で、城野先生が脳力開発の観点から古事記について書かれた『「古事記と人間」：脳力開発による歴史の解明』を読み取り、城野先生が古事記の中から何を受け止めておられるのか整理することとし、まず郷津氏に読んでいただき整理をして頂きます。それをもとに論議することと致しました。

